

地域の笑顔とつながりを取り戻すために ～新型コロナワクチン接種に向けて～

日本国内では医療従事者から新型コロナワクチン接種が始まり、5月からは羽曳野市でも高齢者への接種が始まります。ワクチンの安全性や免疫獲得などいくつかの疑問について、大阪はびきの医療センター橋本医師にお話を伺いました。

【対談者】 医学博士 橋本 章司(地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター 臨床研究センター長)
羽曳野市長 山入端 創・大阪府議会議員 西元 宗一



羽曳野市長 山入端 創

■山入端市長(以下、山入端)

連日、メディアではワクチン接種について報じられており、本市においても2月27日にはびきのコロセアムにて大規模なワクチン接種シミュレーションを行いました。市では集団接種、個別接種、巡回接種という3パターンをうまく機能させて、より早い時期に市民の皆さんに接種していただけるよう、市医師会や各種団体のご協力をいただき、円滑な接種を進めていきたいと考えています。そこで、市民の関心は高いが、情報が錯綜しているワクチンについて、専門の橋本先生から様々なご意見をいただければと思っています。

まず、市民・国民・世界の人々がコロナ対策のために経済活動を自粛している現状について、どのようにお考えでしょうか。

ワクチンは強力なゲームチェンジャー

■橋本医師(以下、橋本)

高齢者や基礎疾患を持つ方々(高リスク者)を守り、医療現場の逼迫を緩和するために行動制限は必要であると考えています。しかし、現在の行動制限の繰り返しだけでは、今後の経済を担う若者の経済意欲が低下し、さらに高齢者の社会貢献

の機会も奪ってしまうので、何らかのゲームチェンジャー(流れを変える解決策)が必要だと考えています。今回の新型コロナワクチンは強力なゲームチェンジャーになる可能性があります。このワクチンで得られる効果、接種に伴う不安点、接種により目指すべき「羽曳野市のコロナ対策」についてお話しさせていただきます。

■山入端: コロナ感染を収束させるには、ワクチン接種が重要であるといわれていますが、ワクチン接種にはどのような効果があるのでしょうか。

大切なのは集団免疫

■橋本: ワクチン接種の効果については、個人防衛、集団防衛、社会防衛の3つの効果が期待され、その中でも集団防衛である集団免疫の獲得がとても大切だと考えています。

■山入端: 集団免疫を獲得するにはどうすればよいか、というところをお教えいただけますか。

■橋本: 高リスク者を感染・重症化から守るために必要な目標ワクチン接種率 $= [1 - 1/R_0(\text{基本再生産数})] \times 100\%$ でコロナ $R_0=3$ とすると67%(約7割)以上であり、医療・介護の従事者と高リスク者から、こ

の接種率を目指して「短期間で多くの方が接種を速やかに進める」ことが重要です。

ウイルス感染と重症化の予防効果の持続期間が数ヵ月～6ヵ月と短い可能性もあり、多くの方へのより短期間の接種で効果を高めることがウイルスの封じ込め(集団免疫)に重要です。

■西元府議: ワクチン接種に不安な方が多いが、どんな事に気を付ければよいのでしょうか。

コロナ感染よりも安全

■橋本: ウイルスが感染した場合にはウイルスの持つ種々の蛋白質に対する抗体ができ、この内の一部の抗体(中和抗体)が感染と重症化の予防に働きますが、同時にできる複数の抗体が重症化や後遺症の原因になると考えられています。現在予定の3種のワクチンは、感染に関係する「ウイルスの表面にあるスパイク蛋白」に対する中和抗体のみを作らせるワクチンであり、実際のコロナ感染やインフルエンザの様な従来の製造法でのワクチンよりも、むしろ安全と考えられています。

ただこのスパイク蛋白の中和抗体だけを作らせる方法が新しい方法であるために主に4つの疑問(不安)点がみられます。①スパイク蛋白のmRNA 遺伝子を包み込む袋の膜成分(ポリエチレングリコール)や抗体産生を増強するために添加するアジュバント物質がアレルギー反応などを起こす可能性や、②接種した遺伝子成分が身体の遺伝子(染色



大阪府議会議員 西元 宗一

羽曳野市新型コロナウイルス
ワクチン集団接種訓練



ワクチン集団接種シミュレーション
(はびきのコロセアムにて2月27日実施)

体)に作用して長期的な異常反応を起こす可能性が過剰に心配されています。③接種後の全身性の重症アレルギー反応(アナフィラキシー)は100万人接種あたり約5~20人ですが、アドレナリン注射の準備など十分に対応できる体制で接種されます。④発熱、疲労感や接種部位の痛み・腫れは数日間で軽度です。すでに医療従事者4万人の先行接種が開始され、千葉労災病院の看護師は「接種部位が当日よりも翌朝の方が少し気になる程度」との報道もありましたね。また、この医療従事者4万人の先行接種者では厳密な接種後反応の調査が行われており、その結果が公表されたあと皆様への接種が始まります。

従来のワクチンは開発から認可までに10年以上かかる事が多い中、今回のワクチンは驚異的な速さで承認された一方で、開発過程はいずれのプロセスも省略されていない上に、効果も高く期待されています。しかし感染免疫(中和抗体)の強さと持続期間は不明であり、感染対策の継続は必要です。

ワクチンを打たないことのリスク

現在大阪府、市町村、大阪府医師会の努力下、高齢者・障害者施設での感染対策や、各二次医療圏内でのコロナ診療施設、コロナ後方支援施設の整備が進み、当初多かった高齢者施設での感染者数も、東京や首都圏よりも減少傾向にあります。

「ワクチンを打たなくても私は大丈夫」との声をよく聞きますが、こ

のウイルスは「感染後潜伏期(約5日)の3~4日目、即ち、発病する1~2日前の、近接のひそひそ話で伝染し易く」さらに「鼻咽頭の粘膜に加えて唾液腺内で増殖し、飲食時の会話の唾液飛散で感染し易い」という厄介な特徴があるために、発熱がなくても近くの人に話しかけるときのマスク着用と多人数での会食の制限を、国民全員が感染するまたはワクチン接種が終了するまで、いつまでも続けなければなりません。

■山入端: ワクチン接種で重要なことは何でしょうか。

心身の体調を整えること

■橋本: 自己防衛の接種では、アレルギー反応は体調不良の場合に起こり易く、不安を払拭して、前日によく睡眠を取り、心身の体調を整えてワクチン接種に臨むことが最も重要です。集団免疫のための接種や高リスク者を守る感染対策は、私の大好きな「One for all, all for one(一人は皆のために、皆は一人のために: 三銃士)」、「大一大万大吉(石田三成)」の言葉の通り、地域住民全体で行ってこそ最大限の効力を発揮します。また、感染対策は病院内でも地域でも「何が危険か(1. 微生物の特徴と伝染経路)。感染した場合に重症化するの誰か(2. 高リスク者)。自分が感染せず相手に感染させないための感染対策は何か(3. 効果的な感染対策)」をこのコロナ禍の今こそ考えることが大切です。今回のお話を基に、皆様が感染対策を考えていただければ幸いです。



医学博士 橋本章司

社会的防衛として免疫を

さらに、このワクチン接種の「本当の目的(社会的防衛としての免疫)」について、様々な人達の立場に立って考えることも大切です。「このワクチンをより多くの方により早く接種していただき」、「羽曳野市全体の新型コロナに対する集団免疫力が高まり」、「地域の若者も高齢者(高リスク者)も含めた全員が自由に散歩や会話ができて、若者や子供たちが高齢者(人生の先輩)に生活の知恵を学べるような(社会免疫の高まった)羽曳野市」に早く戻す事こそ我々の目指すべき方向であると思います。

■山入端: 本日はお忙しい中、多くの学びを与えていただき、本当にありがとうございました。市民の皆様には普段からのマスク着用、手指消毒、フィジカルディスタンスを保つなどを徹底しながら、正しい知識をしっかりと持って、啓発し、ご自身の周りの方にお声がけいただき、より多くの方に早期のワクチン接種を行っていただきたいと思います。羽曳野市として、医師会や大阪府などと連携を図りながら、日常生活を早く取り戻すという思いで頑張っており、取り組んでまいりたいと思います。